

科目名		国際経営論(International Business)							
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第5学年	経営情報学科	学修	1単位	必修	講義	後期	45 時間		
担当教員		【常勤】 助教 根岸 可奈子							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル		<ul style="list-style-type: none"> 国際経営論における基本事項や用語を説明できる。 国際経営論に関する理論を説明できる。 国際的な企業活動の事例を分析することができる。 							
到達目標(評価項目)	優れた到達レベルの目安	良好な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安					
到達目標①	国際経営論に属する様々な分野の基礎事項の意味を正確に把握し説明することができる(90-100%)。	国際経営論に属する様々な分野の基礎事項の意味を正確に把握し説明することができる(70%)。	国際経営論に属する様々な分野の基礎事項の意味を正確に把握し部分的に説明することができる(60%)。	国際経営論に属する様々な分野の基礎事項の意味を正確に把握し説明することができる(60%以下)。					
到達目標②	OLI,内部化理論、組織や経済の発展段階について説明できると同時に、独自の考察するを述べるができる。	OLI,内部化理論、組織や経済の発展段階について説明できると同時に、一般的に指摘されている問題点についても説明できる。	OLI,内部化理論、組織や経済の発展段階について説明できる。	OLI,内部化理論、組織や経済の発展段階について説明できない。					
到達目標③	指定された産業やキーワードから適切な対象企業を選択し情報を集め分析し、独自の考察を述べることができる。	指定された産業やキーワードから適切な対象企業を選択し情報を集め分析できる。	指定された産業やキーワードから適切な対象企業を選択し情報を集めることができる。	指定された産業やキーワードから適切な対象企業を選択し情報を集めることができない。					
学習・教育到達目標	(F)③④		JABEE基準1(2)		(a)				
達成度評価(%)									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	45	45		10					100
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】	◎	○							/
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】	○	◎		◎					
汎用的技能【論理的思考力】	○	◎							
態度・志向性(人間力)【主体性】				○					
総合的な学習経験と創造的思考力【創成能力】				○					

関連科目、教科書および補助教材	
関連科目	外国事情、経営戦略論
教科書	無し。適宜レジメを配布する。
補助教材等	必要に応じて雑誌、新聞記事を配布する。
学習上の留意点	
<p>講義中はレジメの穴埋めをしますが、穴埋めをして満足するのではなく特徴や流れ、傾向を理解するために適宜メモをとりましょう。</p> <p>レポートは提出期限を過ぎたりフォーマットが指定したものと異なる場合は受け取りませんので注意してください。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>私たちの生活はもはや海外との繋がりにしには成り立ちません。別世界の事と考えることなく、現実のものとしてしっかり学んでください。これまで学んできた様々な分野のことを国際化するとどうなるかという点を中心にみていきますので、これまで学んできたことを思い出しながら講義に臨んでください。既習部分については改めて説明をしませんので、分からない場合には質問に来るか自分で復習をしておきましょう。</p>	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	講義紹介	講義の進め方、評価方法について説明できる。	(予習)シラバスに目を通す (復習)シラバスおよび配布資料の見直し
2	多国籍企業の概略	多国籍企業とはどのようなものか事例を見て、彼らがどのような国際的経営活動を行っているのか、その概要を説明することができる。	(予習)1回の見直し (復習)2回内容のまとめを行う
3	進出方法と事業展開	多角化に関連する基本的な戦略を理解した後、日系企業の海外展開について分析できるようになる。	(予習)2回の見直し (復習)3回内容のまとめを行う
4	配置:分散と集中、調整	企業がなぜどのようにして特定の場所に拠点を配置するのか説明できる。	(予習)3回の見直し (復習)4回内容のまとめを行う
5	グローバルマーケティング	企業が海外進出する際、どのように市場開拓を行うのか、その方法と留意点について説明できる。	(予習)4回の見直し (復習)5回内容のまとめを行う
6	グローバルブランド	なぜ企業は商品に「ブランド」をつけるのか、またどのようなブランドが国際的な浸透力をもつのかを中心に説明できる。	(予習)4回の見直し (復習)6回内容のまとめを行う
7	内部化理論とOLI	内部化理論およびOLIについて専門用語を用い説明することができる。	(予習)4回の見直し (復習)7回内容のまとめを行う
8	中間試験		
9	中間試験解説	試験の解説を通じ間違いを修正すると共に、特に論述に関する理解を深めることができる。	(予習)自己採点 (復習)解き直し
10	海外技術移転とR&D	海外生産において重要な技術移転や海外研究開発拠点の意義について説明できる。	(予習)2-7回の見直し (復習)10回内容のまとめを行う
11	国際経営組織	国際的に拡大、複雑化する組織の過程を説明できる。	(予習)10回の見直し (復習)11回内容のまとめを行う
12	多国籍企業の社会的責任	多国籍企業が負う社会的責任について、それが問われる背景と責任の種類、果たし方を理解する。	(予習)11回の見直し (復習)12回内容のまとめを行う
13	多国籍企業と国家の関係	多国籍企業は自国の政府だけではなく他国の政府と関係を築かなければならない。その特殊性について説明できる。	(予習)12回の見直し (復習)13回内容のまとめを行う
14	事例分析	日本を代表する多国籍企業の1つ資生堂社の事例を分析することでこれまで学んだことが実践のなかでどのように活かされているのかを説明することができる。	(予習)13回の見直し (復習)14回内容のまとめを行う
期末試験			
15	まとめ	試験の解説を通じ間違いを修正すると共に、特に論述に関する理解を深めることができる。	(予習)自己採点 (復習)間違えた個所の解き直し
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			30 時間
自学自習			15 時間